神奈川県立柏陽高等学校における学校運営協議会　開催結果

本校の学校運営協議会を次のとおりに開催した。

審議会等名称	神奈川県立柏陽高等学校　令和６年度　第１回学校運営協議会
開催日時	令和６年　６月 25 日（火）　14：00～16：00
開催場所	神奈川県立柏陽高等学校　大教室
［役職名］ 出席者	［委員］川口　吉秋　（会長、元県立高等学校長） 松永　朋美　（横浜市栄区長） 家田　昌利　（横浜市消防局栄消防署長） 細田　利明　（本郷中央連合町内会自治会長） 一杉　太郎　（東京大学大学院教授、本校卒業生） 湊　浩一　（横浜市立本郷中学校長） 野沢　重和　（柏陽高等学校長） ［事務局］大河原　広行（副校長）、 水戸　瑞樹（総括教諭）、吉田　将人（総括教諭）、目黒　梓（総括教諭）、 万年　美喜子（総括教諭）、中島　良光（総括教諭）、市田　尚史（総括教諭） 佐藤　衆（教諭）

～開会～

１　校長あいさつ

〈野沢校長〉校長として二年目を迎え今年度スタートした。生徒の様子が少し変わった印象がある。シンガポール語学研修も 40 名ほどの希望があった。また、首都圏公立進学校交流会の企画であるスタンフォード大学研修は 35 名ほどの募集があった。５月に行われた東大 in 柏陽でも積極的に質問をする姿が見られた。部活動では陸上部が関東大会に出場し、吹奏楽部も中学校や地域と一緒になってイベントをやっていこうとしている。今一年生が 58 期生なのであと少しで 60 周年を迎える。今年度から準備委員会を立ち上げ準備検討を始めていく。皆様から様々な視点からご意見とご指摘を頂き、参考にして活かしていきたい。

２　学校運営協議会の開催にあたって

（１）学校運営協議会委員の委嘱

〈野沢校長〉皆様の机上の教育委員会からの委嘱状の通りに１年間学校運営協議会委員としてお願いしたい。

（２）学校運営協議会委員及び事務局の紹介

〈松永委員〉栄区としては、柏陽高校の文化祭に選挙のブースを出したり、本郷台駅前で GREEN×EXPO 啓発の旗にご協力いただいたりしてきた。全国大会出場に出場した際には、駅前のポールに幕を出すことができるのでご相談いただきたい。

〈家田委員〉 一緒に地域の防災を提供できたらと思っている。

〈細田委員〉柏陽生は非常に規律がいい。生徒からマナーを教えてもらっている。今日も、生徒から大きな声で挨拶をしてもらった。今年から変わった印象を受けた。柏陽高校は栄区の中で名門校であるから、地域のイベントにももっと参加してくれることを期待している。

〈川口委員〉生徒が大きな声で自然に挨拶をしているのは素晴らしい教育がされているからだと思った。体育祭の前日に学校運営協議会が開催できるのは、生徒たちが自分で考えて課題設定して解決していくことができているからだ。

〈一杉委員〉先日も東大 in 柏陽で生徒と触れ合うことができた。積極的に質問をしてくれ、良いインタラクションができた。自分の頭で考えて行動ができる人材を育成するのが大変重要で、柏陽高校でもそのような人材育成が進んでいることを、野沢先生の海外研修についての先ほどのお話からもうかがえた。そのような人材をどんどん育成していきたいと思っているので、少しでも貢献していきたい。

〈湊委員〉柏陽高校は中学生の目標になっている。

（３）学校運営協議会について

〈大河原副校長〉

組織体制、年間計画及び実施日程表は「学校運営協議会運営計画書」のとおりご参照いただきたい。

（4）会長・副会長の選出

〈野沢校長〉

昨年度に引き続き、県立高校の経験もある川口委員に会長をお願いしたい。

（一同拍手）承認

〈川口委員〉

野沢校長が総括教諭だった時に校長を務めていたという縁もあることから、是非会長として頑張らせていただきたい。サポート役として、野沢校長に副会長をお願いしたい。

（一同拍手）承認

〈野沢校長〉

承知した。

3　協議

（1）学校運営協議会の組織について

〈川口委員〉

学校運営協議会には設置が必須の学校評価部会と任意の学校設置部会がある。学校評価部会は委員の皆様に兼務していただく。昨年度からの継続で学校設置部会として地域連携部会と進路指導部会を設置したい。

（2）神奈川県立柏陽高等学校の教育活動等について（報告）

〈水戸総括教諭〉

柏陽高等学校は昭和 42 年に全日制普通科として開校した。平成 14 年に SSH の指定を受けた。長きにわたって学力向上進学重点校の指定を受けている。学校目標は次代を担う人材の育成である。育てたい生徒像と身につけさせたい力として将来の国際社会で活躍する人材の育成を掲げている。高い学力、リーダーシップ、コミュニケーション能力、豊かな人間性と社会性、これらの能力を授業や学校行事、部活動等の学校生活を通じて身につけさせていく。柏陽生の特徴として授業も行事も部活動も全部頑張りたいという真面目な生徒が多い。バランスよくいろいろなことにチャレンジしたいというのが特徴でまた学校全体でも積極的に全部チャレンジしていくような背中を押すような指導をしている。将来の予想が難しいこれからの国際社会で活躍するために本校のカリキュラムを通じて幅広い教養につけて社会に出ていって欲しい。教育課程において他校と大きく違う特徴としては三年生でも理系の国語、文系の数学が必修科目になっている。受験科目が多い国公立の入試も充分に対応ができる。55 期の受験結果は、国公立大学の現役合格率が約 44.1%となった。私立大学の現役合格者数ののべ人数が 1013 名だった。

・授業の柏陽という標語を掲げ、50 分の授業を 65 分に変更して 1.3 倍の授業時間 1.5 倍効果を狙っている。本校では主体的対話的で深い学びを実現するために生徒同士が関わるのを大事にしている。また、授業では ICT の利活用を進めている。また普段の授業に加えて実力アップ講習として土曜講習や夏期講習を設置している。毎年重点を置いた分野別やニーズに応えたような習熟度別の講座を展開している。キャリア教育として、キャリアアップ講座を設置し、東大 in 柏陽、東工大 in 柏陽、国立大学の訪問や東京大学施設での臨海実習などをしている。

・柏陽高校の柱はグローバル教育と探究活動の二つである。

・グローバル教育は海外研修・校内の Global Studies Program やディベート大会・海外の留学生の受け入れ等を行っている。

・海外研修はいくつかある。柏陽高校のグローバル教育は英語で話してコミュニケーションできるだけではなくて、研修を通して、自分の考えを主張し、他者の意見を尊重して、自分自身を成長できるような活動を大事にしている。人間的にも大きく成長できるようなプログラムをたくさん設けている。

・探究活動では、一年生では『科学と文化』というオリジナルのテキストを利用している。一年生では大きく 4 項目を設定して能力を育成している。二年生では 90 以上のグループに分かれて、それぞれの分野について調べ、探究し、ポスターセッションの発表や研究論文の執筆をしている。探究活動の取り組みが認められ三菱みらい育成財団から毎年 100 万円の三年間の助成金を受けている。神奈川県としては柏陽高校が唯一である。

・運動部 16 部、文化部 16 部があり、どちらも活発である。活動の様子はＨＰをご覧いただきたい。

［各グループによる説明］

グループ	説明者	概要
総務・管理	中島 総括教諭	・式典・環境衛生・防災・ＰＴＡ・同窓会・私費会計を扱っている。 ・防災年間計画に基づき、先月防災訓練が実施された。 ・今年度の防災マニュアルを現在作成している。
研究・広報	水戸 総括教諭	・学校案内や全公立展のフライヤーの内容の充実を図っている。 ・全公立展は大好評のうち終えた。 ・ＨＰは、学校全体で更新できる組織体制を整え、生徒の行事を詳しく迅速に発信できるようにしている。 ・授業の柏陽をスローガンとした教育活動を実施している。 ・８月にＯＣを計画し、模擬授業や施設見学・部活動見学を実施する予定である。 ・学校説明会では学校の教育理念と具体的な授業の様子を紹介する予定である。 ・グローバル教育では、海外研修・校内研修・姉妹校訪問等を通してより一層の充実を図っていく。 ・探究活動として『科学と文化』の内容を毎年更新しながら生徒によりより活動を届けたい。
教務・学習	吉田 総括教諭	・教科会を主体として、ＲＰＤＣＡを意識した組織的な授業改善の取り組みが実施されている。 ・管理職による前期の授業観察が実施された。 ・職員間での授業観察や生徒による授業評価を利用して授業改善をしていく。 ・11 月の研究授業を予定している。
進路指導	市田 総括教諭	・55 期生は国公立、135 名合格、127 名進学者であった。 ・例年８割程度の現役進学率であったが、55 期生は約 85％の進学率であった。 ・総合型・学校推薦型の合格者が多く、難関国立 10 大学の総合型・学校推薦型合格者数が神奈川県内１位タイであった。 ・これまでの指導を充実させ、整理したうえで、今年度の指導をしていく。
生活支援	目黒 総括教諭	・教育相談・生徒の安全に関する取り組みを行っている。 ・各学年に教育相談の教員を設置した。生活支援Ｇ・SC・SSW と一体となって支援していく。 ・SSW が対応できる事案を周知させ、より積極的な活用を進める。 ・今年度本校はスタート神奈川の取り組みの推進モデル校にも当たっている。交通安全と指導強化週間では、教員だけではなくて生徒会の生徒によっても交通安全の啓発をしていく。 ・教育相談では SC、SSW の利用が今年度すでに始まっている。
活動支援	万年 総括教諭	・勉強と行事と部活のペースのバランスを教職員が考える課題がある。 ・英語部や陸上部などで大きな大会の成果がある。 ・全体のバランスを考えて生徒の良さを伸ばしていきたい。

［質疑応答］

〈松永委員〉人権教育はどのように扱われているか。

〈目黒総括〉年に１回教職員向けの人権教育研修を受けて、人権教育の基盤を作っている。生徒には LHR を利用して、人を思いやるこころ等を伝えている。

〈細田委員〉１年生にとっては、多くの活動が負担になっていないか。

〈吉田総括〉１学年の代表も兼ねているが、１年生は今疲れていると思う。生徒の様子を掌握し、検討しながら進めていきたい。

〈湊委員〉　柏陽高等学校ではいじめはないか。

〈目黒総括〉この３年の間に大きないじめの報告はない。しかし、ＳＮＳに関する使い方による位置疎通の齟齬のトラブルや、本校の生徒からともわからない誹謗中傷のＤＭを受け取った事案の報告はある。

〈野沢校長〉細かい生徒間トラブルがないことはない。

（３）令和６年度神奈川県立柏陽高等学校の学校運営について（承認事項）
［質疑応答］
〈松永委員〉国際社会に通用する人材を育成するという意味では、多様な主体が一緒に暮らしていることを様々な活動の中で知っていくと思うが、教育活動において明確に意識していただきたい。
〈家田委員〉地域との関わり・協働ということで、ボランティアの意識を高めるような教育活動を増やしていただきたい。
〈細田委員〉柏陽高校は、生徒が希望する大学へ３年間で行けるような教育がされている学校であることがよい。これからもそれを続けて頂きたい。
〈一杉委員〉学校関係者からのフィードバックは非常に重要である。生徒からの評価は、記名か無記名か。
〈吉田総括〉記名ありである。
〈一杉委員〉保護者からの評価はどのようになされているか。
〈野沢校長〉保護者アンケートを卒業時にとっている。ＰＴＡの運営委員会で聞き取っている。
〈一杉委員〉教育活動において国際的ということがクローズアップされている。グローバルに活躍する人材を育てるミッションがあるところで、進学先として海外の大学が選択肢としてあってもいい時期ではないか。
〈一杉委員〉教職員ははたらきやすいか。教職員が元気で楽しく充実していると、それが生徒へ伝播して学生生活も充実する。厳しい授業改善を求められる中で、先生の個性が失われずに尊重されなければならない。その点はいかがか。
〈野沢校長〉授業改善は一つの取り組みとして進めていくが、モデルケースの一つという授業はあるが、あくまでも一つの手段として捉え、画一的になるということではない。管理職主導というよりは、教職員主導で改善の取り組みが始まっているので授業改善の取り組みは順調と考える。
〈野沢校長〉海外大学については、前例がないことが一番の理由ではないか。
〈一杉委員〉最初の一歩を踏み出すことにどれだけサポートすべきかを考えることが学校の仕事ではないか。海外大学への進学に関するノウハウ蓄積が期待される。
〈一杉委員〉現役進学率が高いのは安全志向になっているともとらえられないか。それが国内志向になるとも考えられる。シンガポール等の海外研修を通じて、海外を知ったあとに、海外進学へどのようにしてつなげるのかが課題と考える。
〈川口委員〉人材の海外流失の問題にならないか。
〈一杉委員〉その人材が海外で活躍して、新たな知見やアイデア、人脈を得ることが日本にプラスになる。海外の頭脳循環に参画することが重要だと考える。海外とのアイデア・人材の交換によって日本がよくなる。
〈川口委員〉日本国内だけでなく、世界中で人材を育てるという考え方でよいか。
〈一杉委員〉その通りだ。我々も海外に出て、また海外から留学生や教員を呼ぶことができれば、世界の頭脳循環に入れる。そうならなければ、ガラパゴス化する。
〈湊委員〉柏陽高校の学校説明会を聞くと本郷中学校の教職員が柏陽高校で学びたいという感想を持つことがある。特に、探究的な学習としての『科学と文化』は１つのモデルケースとして評価できると思う。
〈川口委員〉教育活動の内容が充実すれば、その分経済的な負担が増えることも考えられるが、留学等についての支援環境が充実していくことが望まれる。
〈野沢校長〉海外研修について補助を出す同窓会がある学校もある。
〈水戸総括〉横浜市の留学支援や文科省のトビタテ！留学 JAPAN などの支援の仕組みがある。
〈野沢校長〉ご意見・ご提案を参考にしてよりよく学校を運営していきたい。

［承認］
（一同拍手）承認

（４）意見交換
〈一杉委員〉『科学と文化』の探究の授業は重要である。大学において、最先端の研究が最大の教育効果を生む。高校では、好奇心に応じた探究が研究に相当する。自発的な学びは教育効果が高いため、探究的学習が大切である。生徒の好奇心に応じて適切に支援・指導して欲しい。
〈松永委員〉区役所としては、様々な協力を頂いているが、今後もさらに連携を深めていきたい。
〈湊委員〉　大学生の自宅学習時間が少ないことと、大学生の卒業率が高いことには問題点があり、大学卒業したあとに学び続けることができていない。柏陽高校では、自発的な学びができているのではないか。
〈細田委員〉昨年、授業参観したときにグループワークをやっている授業があった。これを増やして欲しい。グループで問題を解決することを学び、社会に出てそれを生かして、地域活動にも生かして欲しい。
〈家田委員〉今日のお話を受けて、職員指導の参考にさせていただきたい。
〈一杉委員〉湊先生の話の通り学び続けることは重要である。大学での学びで最先端の知識を得るが、それは

あっという間に陳腐化してしまう。だから常に学び続けることが必要であり、学ぶ意欲と学ぶスキルを持つ人材育成が必要である。大学では人類初のことをどのようにして切り拓くのかを学ぶ。その学んだ方法を用いて、社会における人類初の課題を解決して欲しい。柏陽高校はそのような人材育成の場になって欲しい。
〈一杉委員〉海外研修のスライドの中で印象的だったのは、語学力を伸ばすだけでなく、自分の意見をはっきり述べる力等を身に着ける、と説明していたことだ。自分の意見を発信して、行動に移して、人類初のことをやり社会をよりよくしていく、そのような人材を育成していることに感謝申し上げる。教職員は、健康に気をつけて、楽しみつつ進めていただきたい。
〈川口委員〉課題発見・課題解決ができる人材を育成していくことを期待している。

4　事務局より

〈大河原副校長〉いろいろな視点からのご意見をお聞きできて参考になった。

（1）今後の日程について

〈大河原副校長〉学校運営協議会は年に３回実施している。今後も文化祭、その他の行事、公開授業等の連絡を行う予定である。

（2）その他

〈野沢校長〉本日はありがとうございました。探究の発表会など学校にお越し頂きたい。柏陽高校の入学者は、中学校の頃から決められた基準をクリアすることに長けているが、今学校教育で求められているのはそれだけではない。それをどのようにやっていくのかが今後の課題としてある。今回は、連絡事項が多かったが、次回は協議の時間を長くとりたい。

～閉会～

今後の検討事項	グローバル教育と探究活動の更なる充実と幅広い進路実現への手厚い支援
主な会議資料	・柏陽高校の教育活動について ・柏陽高校のミッション・学校評価等 ・令和６年度入学者向け「学校案内」
問合せ先	県立柏陽高等学校　副校長　大河原　広行 電話番号 045(892)2106